

8.2 課外活動

進捗状況報告

	公開/非公開	全学的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	備考	
指標1	学生会公認団体/自治会傘下団体の構成員比率	公開	○	%	21.38	19.79	22.68	21.53	(学生会公認団体構成員数+自治会傘下団体構成員数)÷在籍学生数
<small>注) 指標1について、学部生、大学院生、専門職大学院生を対象とし、学生会公認団体は6総部(体育会、文化総部、応援団総部、新聞総部、総武放送局、宗教総部)、自治会傘下団体は法学部自治会、商学部商学会研究会委員会とする。</small>									

課外活動施設については、人間福祉学部開設にともなう、第2フィールド陸上競技場の全天候型トラック、インフィールド(ラグビー場)の人工芝化が2007年8月に完成し、9月よりそれぞれ使用している。一方、予定されていたサッカー場および硬式テニスコートの移転は、近隣住民との話し合いがうまく進まず来年度へ持ち越しとなった。

強化指定クラブについては、アメリカンフットボール部が甲子園ボウルを制し、6年ぶりに学生日本一に輝いたのははじめ、ラグビー部、サッカー部が全国大会に出場するなど着実に力をつけてきている。優秀な学生の確保に加え、施設面の充実、強化費用の援助等で一定の成果は出ていると言えるが、より効果のある施策とするため、来年度の見直しに向け、組織、強化クラブの選定、予算額等について検討を開始した。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

学業との両立、モラルの維持などの問題については、毎年、フレッシュマンキャンプ、リーダーズキャンプ、主務会等を通じ啓発を行っている。体育会員による事件や未成年者の飲酒問題が多発しているなか、今年度はさらに1回生に対し、学生部より、体育会員として、関学生として、大学生としてどうあるべきか等について研修の場を設けた。また、「人間力を育てるスポーツ活動」をテーマに開催した講演会、パネルディスカッションの内容も濃く非常に好評であった。このような啓発活動は体育会員に対するものがメインとなっており、今後その他の団体への施策も考えていかなければならない。

学内第三者評価

スポーツ活動において学生の全国大会での戦績などを見ると、順調に進んでいると認められる。一方で全国レベルで活躍するスポーツ系の課外活動団体において、試合に出場する機会のない学生のモラルの維持などの問題などどのような施策を行っているのか、あるいは、検討しているのか、記述されていない。また、公認団体以外の学生諸団体の活動については、支援することは困難であろうが、動向などに注意を払うことが求められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
進捗状況報告に記載されているように、毎年度、PDCAをきめ細かく実行していくことが求められる。